

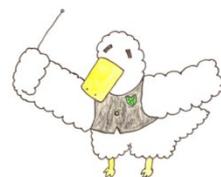
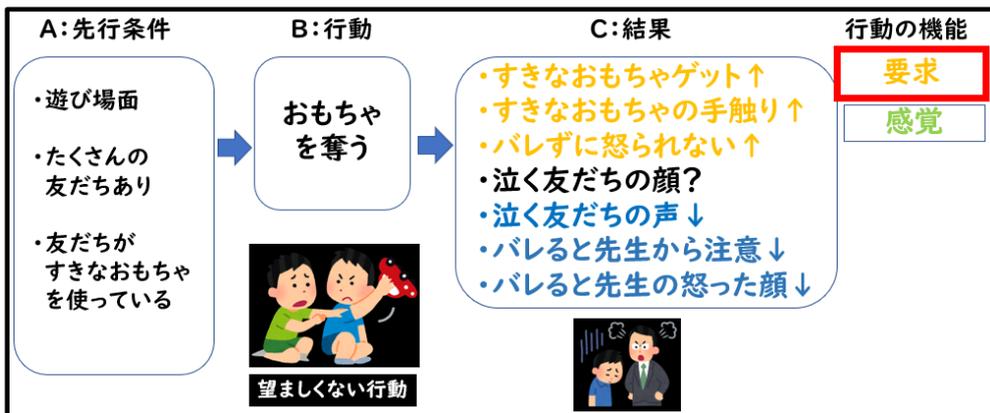
【園や学校で子どもたちが示す行動の捉え方について】

子どもたちの一日の生活をみるとさまざまな行動をしています。それらの行動を、先生や保護者からの視点で捉えたとき「望ましい行動」や「望ましくない行動」と判断することがあると思います。

「望ましくない行動」を子どもたちはどうしてとるのでしょうか？

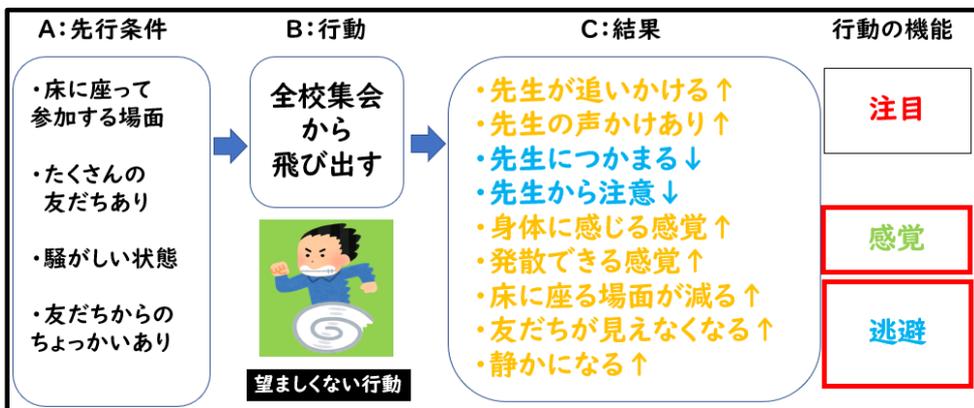
AくんやBくんの具体例を通して考えていこうと思います。

4歳のAくんは「おもちゃを奪う」行動がよく見られます。ABC分析を用いて整理していきます。



Aくんは、おもちゃを使いたいという要求を言葉で伝えず直接「奪う」行動をとっていることがわかります。

続いて、小学生のBくんは「全校集会の場所から飛び出す」行動が見られます。

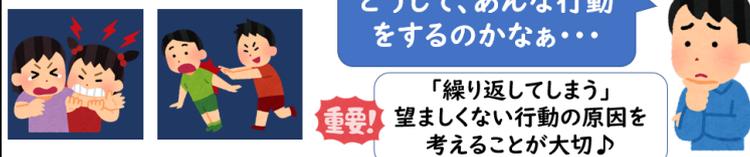


Bくんは、教室とは違う「騒がしい場所」や「友だちからのちょっかい」から逃避するために、「全校集会の場所から飛び出す」行動をとっていることがわかります。

・**本人の特性と環境との相互作用**で生じる。
 ・**他者とのコミュニケーションの問題**が大きく関連している。

どうして、あんな行動をするのかなあ...

重要! 「繰り返してしまう」望ましくない行動の原因を考えることが大切!



望ましくない行動をとってしまうのは、本人だけの問題ではないことがわかります。

Aくんの場合は、適切なコミュニケーションスキルを獲得すること、使用できる環境を整えることで解消される可能性が高いことがわかります。

Bくんの場合は、本人の特性の理解と特性に合った環境を整えることで、全校集会に参加できる行動が増える可能性があることがわかります。